

NPO 法人 純正律音楽研究会会報 ～2020年8月発行～

ひびきジャーナル



〒168-0072 東京都杉並区高井戸東 3-2-5-102 Tel:03-5317-0291
Fax:03-5317-0289 e-mail:puremusic0804@yahoo.co.jp

発行日 2020年8月7日
発行責任者 NPO 法人 純正律音楽研究会
編集 相坂政夫

No.65



長かった梅雨がやっと明けたと思ったら、途端に猛烈な暑さとなる今日この頃、皆様如何お過ごしでしょうか。

今年は新型コロナウイルスの蔓延で、各地でお祭りや、花火大会、コンサート等が軒並み中止となっています。ご多分にもれず当会も3月、6月とコンサートが中止となりました。

9月26日はなんとか開催をしないと、ヤマザキパン様と打ち合わせを重ねてまいりましたが、ここ数日、関東近県の感染者数の拡大で、中止せざるをえないということになり、中止を決定いたしました。

スタッフの皆様、関係者の皆様、また楽しみにされている皆様、誠に申し訳ございません。

なお、今のところ年内の開催は無理と考えております。現在、来年の3月6日(土曜日)、市川のヤマザキパン「LLCホール」での開催を予定しております。

コロナウイルスが蔓延しております。皆様どうぞお気をつけてお過ごしください。

今後とも純正律音楽研究会をよろしく願い申し上げます。

まだまだ続きそうな新型コロナの影響

洗足音楽大学教授・ヴァイオリニスト
NPO 法人 純正律音楽研究会 代表
水野佐知香

会員の皆さま！いかがお過ごしでいらっしゃいますか？
新型コロナウイルスの影響で、マスクをつけたり、食事は横並び、お店の会計では、ソーシャルディスタンスで空間をあけて、床に並ぶための足跡が貼られているんですね！カードでの買い物も、店員さんから「カードをいれて！取って！」など、など新しい生活様式には戸惑っていらっしゃいませんか？

8月に入り、もう今年も4ヶ月を残すのみ！時が経つ早さを感じます。

やっと梅雨明け、今年はお野菜も高値が続き、買い手も大変ですが、生産者の方々もとても苦労されているようです。また各地の大雨の被害にも心が痛みます。

3月からほとんどのコンサートが中止又は延期になっています。最近やっとコンサートが少しずつ戻ってきました。とは言ってもお客様は半分以下！私たちの純正律音楽研究会主催のコンサートも会場の関係で、中止を余儀なくされています。

事務局が、YouTubeで玉木さんが弾いている曲を流してくださっています。ぜひお聴きください。なお、チャンネル登録をして楽しんでいただければ幸いです。

大学の合奏授業では対面での合奏も始まっていますが、全員マスクをして、1人一台の譜面台に楽譜を置いて、1.5mずつ離れて演奏をしています。国内のプロオーケストラも再開をしていますが、マスクをしていると「耳を圧迫して音が聴こえない」と皆さん言っています。しっかりしたマスクだと弾いていて弦が見えないし！ということです。どこかに楽器を演奏するのに適したマスクがないか、いろいろ実験中のこの頃です。

毎日、新型コロナウイルスの話題、自粛を要請で、なかなかうれしい話題はありませんが、こんな時だからこそ、楽器が弾ける、webでもレッスンができる幸せを噛み締めて、「笑う門には福来る」と言いますが、この大変な時代だからこそ、ニコニコ、物事をプラスに捉えて、今しかできないことを考えようと思うこの頃です。

皆様どうぞ、お身体を大切にお過ごし下さいませ！



ムッシュ黒木の純正律講座 第 64 時限目

平均律普及の思想的背景について(53)

純正律音楽研究会理事 黒木朋興

ユダヤ教、キリスト教やイスラーム教などの啓示宗教の強さは集会を定期的
に開く習慣があり、それを運動につなげていくことができる点にあることを前
回述べた。しかし、その集会がクラスターの温床になってしまっていることも
確認した。啓示宗教において神とは世界の創造者であり、その神の意図を探る
ことが信徒の務めである。神が創造者だとすれば、コロナウイルスを創ったの
も神であり、この病が流行っていることにも何からかの神の意図の現れとい
うことになる。だとすれば、信仰心の厚い信徒を狙い撃ちしているかのような今
回のパンデミックはどう理解すれば良いのだろうか？という疑問が生じるこ
とになる。

対して、主にキリスト教徒に自然宗教と呼ばれている他の宗教はどうだろう
か？ 理性的な啓示宗教の立場からすれば、自然現象を神格化する自然宗教は
自分たち啓示宗教に比べて一段劣った宗教とされていることをまずしておく。

古代インドの神の一柱であるヴァルナをとりあげてみよう。後に仏教に入っ
て水天となる神である。ヴァルナはその名の如く水を司る上で、人間が契約を
破るなど神を蔑ろにすれば、疫病を流行らせるなどの行為に出る。つまり、パ
ンデミックを神格化した存在とみなすことが出来る。このような神は、理性的
な立場から言えば、人間の想像力の産物に過ぎないということになるのだが、本
当に実在しないものなのだろうか？

病を神の仕業あるいは妖怪とみなすことは珍しいことではない。例えば、2016
年 07 月 05 日(火)～08 月 28 日(日)の日程で江戸東京博物館で開催された『大妖
怪展 土偶から妖怪ウォッチまで』において、九州国立博物館蔵所蔵の「針聞
書(はりききがき)」(1568)の中から「蟻虫(ぎょうちゅう)と血積(ちしゃく)
」の絵が展示された。この書は茨木元行という医者が記した鍼(ハリ)治
療の解説書である。この本によれば病はムシが体に入ることによって起こると
され、鍼によってこれらのムシを追い出すことを治療とする。蟻虫は宿主の悪
事を閻魔大王にしゃべってしまうムシ、血積は大病をすると胃の中に現れるム
シとされる。この本には様々なムシの絵が描かれており、その姿は愛らしいと
さえ感じる。もちろん、これらの絵は想像の産物に過ぎず、実際にこのような
姿のムシが存在するべくもない。人間の想像力が産んだ人間に害悪をもたらす
存在という意味で、これらのムシは妖怪展で紹介されるのに相応しいと言える
だろう。

しかし、これらの妖怪は実在しないあくまでも想像上の存在に過ぎないもの
であろうか？ そしてこの「針聞書」は非科学的なトンデモ医療の書物なのだ
ろうか？ この本が書かれた戦国時代当時、顕微鏡はまだ存在せず細菌やウイ
ルスの存在は目に見えなかったということを確認しておきたい。目に見えない
けれど確実に存在し、人間に害悪をもたらすものを妖怪、呪い、幽霊や天罰と
呼んでいたとするならば、それらを非科学的と断じしてしまうことはできないこと

が分かるだろう。人類は目に見えないけれど作用を及ぼすものの存在を太古から知っており、それ故に酒や醤油などの大量の発酵食品を作り続けてきているのだ。

だから、妖怪、幽霊や呪いの箇所を細菌やウイルスと置き換えて読んでみれば、近代以前の文書もまた違った読みができることになる。例えば、19世紀半ば、第二帝政期のパリではコレラが大流行する。臭い空気が立ち込めている貧民街で流行が拡大したので、コレラは空気感染だと信じられていた。その原因となる空気が瘴気 (le miasme) である。ナポレオン III 世の臣下であったオスマンは古い町並みを壊し新しい都市空間を建設したことで知られるが、この計画の目的の一つが街からこもった瘴気を一掃することだったのだ。都市改造計画の一環として行われた下水道の整備の結果、コレラの流行は終息するが、顕微鏡の開発によりコレラが空気感染ではなく経口感染であることが判明するのはしばらくたった19世紀末であることを言添えておく。

妖怪や呪いが病原菌の比喻であるとすれば、自然宗教で語られる病の原因は必ずしも非科学的とは言えない。また、病への恐怖が引き起こす荒唐無稽な噂や社会不安を妖怪だとすると、現在でさえ確実に妖怪は我々の社会を蝕んでいる。

コロナが引き起こしたパンデミックを前にして我々は改めて宗教と科学について考えなければならぬだろう。



音楽を盗む！その奇想天外な工夫の数々

NPO 法人 純正律音楽研究会 初代代表
玉木宏樹遺作

1、ギョッ！まったく同じメロディの校歌が

今年の高校野球もまた、たいへん面白かった。野球の中身についてではない。

なにしろあれだけの規模のビッグ・イベント、虚実おりませた教育現場の実態などとならんで、思わぬエピソードやハプニングが生まれる。

8月15日付けのスポーツニッポンの紙面にかなり大きな記事がでた。

＜アレレ、甲子園に中学校歌?!＞

専大北上そっくり”唱”秋田・金浦

熱戦つづく夏の甲子園「全国高校野球選手権大会」で思わぬ”珍事”が持ち上がった? 十日の第四試合で兵庫代表・村野工業高校を破り、見事初陣を飾った岩手代表・仙台北上高校の校歌と秋田県・金浦町の金浦中学校校歌のメロディがほとんど同じであることが14日までに確認された。

私は職業がら、各校応援団のブラスバンドの実力や、やる曲の内容などが気になるたちだが、なかでもひときわ気になるのが、勝利校の校歌吹奏である。歴史の古い明治ころの開校の曲は、歌詞もメロディもまさに「明治調」だったりして、日本の校歌たるもの、見事にパターン化され、ほとんどの曲がもっともらしい「校歌」になっている。

そんななかにあって、はしたなくも露呈したのが上記の「同じメロディ?」エピソードだ。一回戦で勝った専大北上校の校歌が吹奏されるや、驚いたのが金浦中学の先生だったというわけだ。たんに似ているという以上のものが感じられるので、愛知芸大の石井歓名誉教授に判定を仰いだところ、その二曲はまったく同一のものと判明したというのだ。中学の方がわずかに早く、昭和31年制定、高校の方は翌32年だった。

皮肉なことにこの二曲の作曲者はまったく同一人物で、判定を下した石井歓教授の伯父に当たる人だったのである。

面白いのは金浦中学の人たちの反応だ。メロディの流用に怒るのかと言えばそんなことはまったくなく、返って親しみをおぼえて喜んでいるとのことである。当事者たちが気にしないからといって、疑問は消えるわけではない。姉妹校でも何でもない学校同士なのに、なぜこんなことが起きてしまったのだろうか。まあごく単純に言えば、先に作った曲のイメージがよほど強く作曲家のなかに残っていて、どうしてもそれを乗り越えるメロディを思い付くことができず、歌詞の字脚もそろっていることだし、エエい、ままよ、土地も離れていることだ、バレるはずもない、よし、前のを使っちゃえ! というようなことではないだろうか。

さてここに、音楽著作権上の問題が生じるだろうか? 法の詳しい運用面は知らないが、両校が同一の作曲家に発注したのが事実であれば、私の印象では100%問題は生じない。(実は校歌には音楽著作権の適用は除外されている)ただ先に使用している側から専有権を主張されたら、あとの学校は不利にはなるだろう。また当事者の誰かが詐欺罪で作曲家を訴えれば話はまたちがってくるが、これは著作権上の問題ではなく、あくまで作曲家個人の信用問題に過ぎないが、幸いなことに?この作曲家は他界されている。

セレモニーの「顔」たる校歌だからこそ目立つ話ではあるが、実はこんな話は

ヤマほどある。

クラシックの場合ではロッシーニの例が有名だ。イタリア・オペラの作曲家として超売れっ子となったロッシーニは、あるオペラの開幕までに序曲の作曲が間に合わず、とうとう前に公演してあまり売れなかったオペラの序曲を流用している。従って同じ曲に二つの題名がついているという珍事がいまでも続いている。その他の作曲家でも、以前評判にならなかった曲を別のものに流用して有名になった例はいくらでもある。

ポップス界では、前に売れなかったメロディを歌詞を変えたら大ヒットしたという例などは、特に珍しいことでもない。

こんな場合、ロッシーニを除き、人に後ろ指を指されることはなにもない。またロッシーニの場合も、もしバレたからと言って詐欺罪で訴えられることもない。しかし、各種メディアの発達した現代ともなればそうは行かなくなる。例えば企業からの発注で作った曲、社歌やCMソングなどの場合、競合会社のトヨタとニッサンのメロディが同じだったりしたら大問題となろう。両者が同じ作曲家に発注するという事は考えられないからそういう問題はおこりえないとは思いますが、高校野球にまつわる話としてもうひとつ、なんとなく気にかかることがある。それは入場行進等に使われている長い長い高校野球賛歌、誰もが知っている例のメロディが、阪神タイガースの応援歌とよく似ているということだ。そしてまたその阪神タイガースの応援歌が何と、読売巨人軍の応援歌にもよく似ているのだ。

この三曲はともに同じ作曲家の曲である。こともあろうに阪神と巨人がおなじ作家に応援歌の発注をするなんて、いまでは信じられないようなおおらかな時代があったものである。

2、マネと盗みの違い

何の因果で作曲家になってしまったんだろうと自分を哀れに思う瞬間ほどつらいものはない。どういう瞬間にそうなるのか-----。

自分では充分自信をもって指揮棒をふる。とてもいい音でいいメロディ、自分でもワクワクドキドキ、思った以上に効果的で、オレは世界一の天才などと思いついてる瞬間に「何だ、ガーシュウィンにそっくりじゃないか」との酷い死刑判決が下される時である。

ここでガーシュウィンといったのは、ただ例えに出しただけで、これがビートルズだろうと、ストラビンスキーだろうと古賀政男だろうと、本質的に変わりはない。この場合、ガーシュウィンということにするが、問題は、自分にはガーシュウィンのことなんかまるで念頭になかったということである。指摘した人間にじゃあ一体、ガーシュウィンの何に似てるんだいと刃向かうと、悪いことにちゃんと曲名まで上がってくるということもある。ところが自分はそんな曲はいままで一度も聴いたことがないのだからまったくおかしな状況になる。いくら知らないとムキになっても疑いはますます深くなる一方だ。

まあ、どこかでいつか耳にしたのが潜在意識に残っていたということも考えられなくもないが、本人に自覚がない以上、似ているということは偶然意外のな

にもものでもない。なのに、盗作まがいのレッテルを貼られるのは誠に理不尽で腹立たしく、心底プライドが傷つくものだ。

こういうことが何回か続くようだと作曲家になる望みは即刻捨てたほうがよい。偶然はそう何回もあるものではない。たんなる自分の知識不足をさらけ出しているに過ぎないということなのだ。

しかしまた一方ではこんなこともある。自分は前々からバルトークを尊敬しており（これまたバルトークでなくてもいいのはもちろんのこと）、数々の曲を研究している。死ぬまでに一曲でいいから、あれほど複雑で格好いい曲を書きたいものだと思い込んでいるところへ、まさにバルトーク風の曲が合いそうな注文が飛び込んでくる。もう張り切るの何の、懸命に書きまくり、音がでた瞬間、何もかもうまくいっているとの感触を得たうえに、「バルトーク風じゃないか」という声に接しようものなら、その嬉しさたるや、まさに天にも昇る気分なのである。とてもじゃないが足元以下にも及ばない、遠い存在だったバルトークが、急に友人になったような晴れがましい気分すらするのである。こういうときの「バルトーク風」という言葉はまったく非難には聞こえず、大賞賛の声に映るのである。作曲家の「業」とはかくも因果なものなのだ。

始めのガーシュウインの場合、これは模倣でも盗作でもない。前にも述べたように、多くはたんなる世間知らずである。自分の曲に対して、これは絶対、自分の独創的なメロディ、スタイルだと言いきれるためにはよほどたくさんの音楽を仕入れて、引き出しに置いておき、まず自分自身でオリジナリティを確認しておかねばならないはずだ。才能と力のある作曲家にだけにしかく偶然似てしまった>という言い訳は通用しないものなのだ。

二つ目のバルトークの場合。これはいわゆる<模倣>といえるだろう。その作曲家はまだ発展途上なのである。ギャラをもらって勉強できるという幸福感にひたっていればよい。

さてそれでは「盗作」とは-----。

これはもう、まったく意識的に他人のフレーズを盗むことなのだが、あまり下手くそに露骨にやるとバレてしまうので、これにもかなりの技術はいる。

一昔前のレコードアレンジャーたちは、他人よりいちはやくアメリカのヒットチャートものを取り寄せて、最新のフレーズとかサウンドを吸収し、すぐに日本の歌もののバックアレンジに反映させた。エリック・クラプトンの<レイラ>という曲がはやりそうになったとき、某アレンジャーは、そのおいしいフレーズをうまく日本の曲のなかに忍ばせ、結構ヒットした。

業界では、よくやるわいと苦笑したものだが、それがヒットして大分たってから、某カツラメーカーのCMに堂々とそのフレーズが登場したのにはびっくり仰天させられたものだった。アレンジャーの盗みはソフィストケートされているから、わかるものだけの世界に留まるが、CMに登場したフレーズはあまりにも露骨にその姿をさらしていた。そのCMを作曲した人は、恐らくエリック・クラプトンのこともしらず、歌謡曲の方からいいフレーズを盗んだ気でいたのだろうけれど、これはもう露骨すぎて、笑うわけにもいかない。

もし、盗作の根拠にした曲に著作権がある（作詞、作曲家が生存中か死後50年以内）場合、原曲の著作権保持の関係者から訴えられると、はなはだ厄介な

裁判にかけられることになる。そういうおもしろい（他人から見て）例は後ほど述べるとして、その前に模倣と盗作の違いについてもう少し考えてみよう。

古今東西の芸術家の出発点はもちろん模倣に始まる。どんな天才的な子供でもお手本なしに上手な絵はかけない。

バッハはヴィヴァルディを模倣し、モーツァルトはマンハイム楽派とハイドンをまね、初期のベートーベンもモーツァルト風だった。

だいたい、モーツァルト時代までというのは、作曲家が他人のフレーズを盗むことをとがめる土壌などまるでなく、いわゆる「盗作」というものはもっと大掛かりで組織的なものだった。当時、若手で売れっ子の作曲家が登場すると、各地、各国でいち早くその作曲家の名前を騙った贋作を音楽出版社みずからがデッチあげ、販売したのだ。これではもう盗作というものではなく、ニセモノ作りである。

ペルゴレージという 24 歳で死んだ天才作曲家などは 60 まで生きたとしてもとうてい書ききれなかったほどの贋作が出回っているし、いまでもモーツァルトの作品のいくつかには「？」マークがついている。当時の作曲家の「売れっ子度」は、どれだけ贋作が出回っているかということでもあったのだから、作曲家個人が他人のフレーズを盗むなどということにはほとんど犯罪の意識すらなかったのではないだろうか。

ストラディヴァリを始めとした楽器の贋作といい、楽譜の贋作といい、ヨーロッパ人は実にニセモノ作りが好きなのである。いや、そんな言い方は失礼かも知れない。日本よりずっと前にバブル経済を経験済みだという文化的先進国のあかしだともいえるのだから。

話をもういちど作曲家自身の問題に戻そう。

後世に残る有名作曲家でも若いときの作品は何々風だったりするが、いつまでもその場に留まっていると一流の作曲家にはなれない。問題はすごい才能を持ちながらいつまでも模倣を続ける作曲家と、もうひとつ、パロディ的な作曲態度を好む人の存在である。

才能があり、器用な作曲家ほどいろんなスタイルを書き分ける能力を持っており、また好んでパロディ的に他人のスタイルをまねする人たちも多い。とくに狙いのはっきりしたCM音楽などの場合、スタイルの模倣を露骨に要求されることが多い。私も30秒のCMで頭がバッハ風、中がジャズ、そしてギンギンロックという綱渡り的な要求をされたことがある。こうなってくると、何が模倣で何が盗作かという境界線なんてもう見いだせない。模倣か盗作か、それを一番よく知っているのは作曲者自身だろう。

大分前、クラシックとは無縁の作曲家の仕事場へ顔を出したとき、クラシックのテーマ・インデックス辞典が棚においてあった。私は皮肉まじりにクラシックの勉強をしているのかときいたところ、答えが面白い。「いや、自分の曲が何かに似ていないかどうかを調べるんですよ」といいながらウィンクし、ニヤリとした。このウィンクの意味、おわかりとは思いますが。

CD レビュー 純正茶寮
『Univers Zero』(1977)
純正律音楽研究会理事 黒木朋興



『Univers Zero』(1977)
Univers Zero
レーベル: Cuneiform
ASIN: B00168ZI70
JAN : 0045775131320

1977年に発表されたベルギーのプレグレシヴロックバンドUnivers Zeroのファーストアルバムである。

高校時代、先輩に教えられてUnivers Zeroを知った。当時、僕は友人とロックバンドをやっていて、現代音楽にも興味を持ち始めていた。ロックの文脈にバスーンやオーボエなどの木管楽器やヴァイオリンやチェロなどの弦楽器を導入し、畳み掛けるような変拍子と所々で響き渡る不協和音からなるを多用する楽曲は、シェーンベルグやバルトークをロックにしたらこんな感じになるのではないか、と思わせた。

いずれこんな楽曲を作り演奏できるようになりたいと思いつつ、こんな曲を作るには何をどう勉強したら良いのかと自問した。だから、後に雑誌のインタビューでリーダーのダニエル・ドゥニが音楽は独学で楽譜も満足に読めないと知って、衝撃を受けたことを記憶している。

ただ、それまでロック一辺倒でエレキギターやシンセの音に慣れ親しんでいた僕にとって、バスーンやヴァイオリンといったクラシックの楽器に興味を持つきっかけを作ってくれたのがこのバンドだ。特に、エレキ楽器の割合の低いこのアルバムを何回も何回も聞くことによって、クラシック楽器が奏でるメロディや協和音・不協和音にだんだんと耳が慣れていった。そして、どうも平均律一辺倒であるエレキギターやシンセと違った音を出していることに気が付い

たのもこのアルバムがきっかけだったと思う。それは音色だけの問題ではなく、まさに音程の問題でもあったのだ。

作曲を担当しているダニエル・ドゥニがハーモニーや微分音について専門的知識を持っているわけではない。ただ、バスーンやヴァイオリンなどの楽器を使って良い音を極めようとするれば、無意識流れらでも微分音を使った微妙な表現に行き着くのは当然の成り行きだ。

その意味で、このアルバムは文字通り僕の人生を変えた一枚となった。

キリスト教の分派（その2新教）

純正律音楽研究会 正会員
弁護士 齋藤 昌男

目次

- 第1. 宗教改革
- 第2. ルーテル教会
- 第3. 改革派教会及び長老教会
- 第4. 英国国教会
- 第5. バプテイスト教会
- 第6. 会衆派（組合）教会
- 第7. メソジスト教会
- 第8. 救世軍
- 第9. ホーリネス教会
- 第10. ペンテコステ派教会
- 第11. メノナイト教会
- 第12. アーミッシュ
- 第13. クエーカー派
- 第14. デイサイプル派教会
- 第15. ユニテリアン
- 第16. 新宗教
 1. モルモン教
 2. エホバの証人
 3. 無教会主義
 4. クリスチャン・サイエンス
 5. セブンスデー・アンヴェンテイスト派
 6. サイエントロジー
 7. シエーカー派

- 8. 統一教会
- 9. 解放の神学
 - (1) 中南米の解放の神学
 - (2) 黒人解放の神学
 - (3) 荊冠の神学
 - (4) ダリット神学

第17. 福音派とは何か

第1. 宗教改革

1. 宗教改革とは、16世紀のドイツに端を発したキリスト教改革運動で、これによってプロテスタント教会ないし新教が生まれました。プロテスタント教会の確立は、ルネッサンスとともにヨーロッパの近代を開いたと言う歴史的意義を持ちます。
2. しかし、その先駆的運動は、イギリスのジョン・ウイクリフ (John Wycliffe) (1330年頃—84年)、ボヘミアのヤン・フス (Jan Hus) (1370年頃—1415年) その他の異端運動としてすでに中世末期の諸国に現れています。
3. (ドイツ) 1517年ザクセンでの大々的な贖宥上販売に対して、アウグスティヌス修道会士ヴィッテンベルグ大学教授であるマルティン・ルターは、ヴィッテンベルグ城教会の門扉に「95カ条の提題」を貼り出して疑義を呈しました。教皇庁は、断罪と破門をもってこれに応じましたが、このルター主義の蔓延を食い止めることは出来ませんでした。この後、神聖ローマ帝国は、1555年アウクスブルグ宗教和議にいたるまで戦乱に悩まされることになりました。ルターの根本思想は「信仰によってのみ義とされる」(信仰原理)、聖書のみを忠実な教会(聖書原理)、神の前での平等(万人祭司)を目指し、それらの宗教改革の3大原理として、その後のすべてのプロテスタント教会の共有財産となりました。しかし、アウクスブルグの宗教和議は、個人の信仰の自由を認めたものではなく、宗派の選択権を諸侯たちに認めたに過ぎませんでした。
4. (スイス) スイスでは1519年以降ツヴィングリ (Zwingli) がチューリヒで改革運動を行いました。1523年チューリッヒは、ローマからの分離を宣言し、その後ベルン、バーゼル等の諸都市に拡大しましたが、1531年ツヴィングリがカッペルの戦いで戦死し、中心的指導者を喪失しました。1536年、カルヴァンがフランスから亡命し、ジュネーヴで、信徒の道徳的紀律をいっそう強調する改革派教会を打ち立てました。以後、ヨーロッパ各国の多くの改革派がジュネーヴを訪れ、カルヴァン派を故国に弘め、フランス、ネーデルランド、イギリス、アメリカへ普及しました。
5. (フランス) フランスでは、16世紀なかばころユグノー (huguenot、自由業、労働者、職人、農民、一部の貴族など) とよばれるカルヴァン派のプロテスタントが勢力を増しました。プロテスタント・カトリック

両派の対立は、1562年から約30年にわたる内戦（ユグノー戦争、1562～98）を引き起しました。しかし、結局、ユグノーの指導者であったブルボン家のアンリ4世（位1589－1610）が王位をつぎ、国家全体の見地からカトリックへ改宗したのち、1598年ナントの王令でプロテスタントにも大幅な信教の自由を認めました。しかし、ルイ14世の治下にナントの王令が廃止され（1685年）、国外へ亡命するものが続出しました。そして真の信教の自由が確立されるのは、フランス革命を待つ必要がありました。

6. (イギリス) イギリスの宗教改革は、国王ヘンリー8世の離婚問題に端を発します。ヘンリー8世（位1509－47）は王妃との離婚問題で教皇庁と手を切り、議会の支持のもとに国王をイギリス教会の首長とする国教会をうちたて（1534年の首長法）、修道院解散法によって豊かな教会領を没収して王の直轄下におきました。このようにイギリスにおいては、国王本位のまったく政治的動機から宗教改革が行われましたが、つぎのエドワード6世（位1547－53）のもとでようやく教義の面でもプロテスタントが採用されました。女王メアリ1世（位1553－58）はカトリックの復活を試み、プロテスタントを弾圧しましたが（「流血好きのメアリ」）、結局、エリザベス1世（位1558－1603）の即位とともに国教会体制が最終的に確立し（1559年の統一法）、イギリスの絶対王政はひろく国民の支持をえて最盛期をむかえました。この様にしてイギリスもまた当時の諸国と同じく、国家教会の形において宗教問題を收拾しましたが、このような体制宗教に反抗した連中は、清教徒運動のなかにその活路をみいだしてゆくことになります。
7. (オランダ) スペインの属領ネーデルランドではカルヴァン派の勢力が強く、フェリペ2世は彼らを迫害し、この地の自治権を奪う改革をとったので、1568年激しい反乱が起きました（オランダ独立戦争、1568－1609）。南部諸州（フランドル）は、やがてスペインに屈服しましたが、北部7州はユトレヒト同盟を結んで、オレンジ公ウイリアムのもとに抗戦を続け、1581年、ネーデルランド連邦共和国（連邦の中心であったホラント州の名をとってオランダと呼ばれる）の樹立を宣言しました。

第2. ルーテル教会

1. マルティン・ルターの名にちなみ、ルター的若しくはルター派の教会という意味をもって呼ばれるプロテスタント教会です。現在、世界中に7,000万人を超える信徒がおり、プロテスタント教会のなかでの最大の教派であります。
2. J. S. バッハが活躍した18世紀前半まで、ルター派教会音楽は隆盛をきわめておりました。ルター自身にも、礼拝上の必要に迫られて自ら書いた37編の讚美歌があります。
3. ルター派の神学的特徴は、信仰義認の教えで、「恵みのみ、信仰のみ、聖書のみ」の三大原理と言われ、信仰者はみことばと二つの聖礼典（洗礼と聖餐）とによる神の働きによって生かされていると信じられています。

す。

4. 1530年の「アウクスブルグ信仰告白」によって基本的立場が確立され、1555年のアウクスブルグ宗教和議によって帝国法上公認されました。
5. ルーテル教会はドイツの領邦教会という性格をもっておりましたが、北に向かい、デンマーク（ノルウェーを含む）は1536年に国王がルター派を受け入れ、スウェーデンはデンマークからの独立とも絡み、1524年ルター派を受け入れ、独自の国教会形成にいたります。フィンランドは19世紀初めスウェーデンから独立しますが、やはりルーテル教会を国教としました。これらの北欧の国々では、人口の90パーセント以上がルーテル教会に属しています。

第3. 改革派教会 (Reformed Church) 及び長老教会 (Presbyterian Church)

1. ツヴィングリ、カルヴァンの宗教改革によってスイスで始まった改革派教会は、ルターの宗教改革と同様に、「聖書のみ」「恵みのみ」「信仰のみ」を強調した点は、同一線上にあります。聖礼典（サクラメント）も洗礼と聖餐の二つで、これも同じです。しかし、その改革の実際に当たっては、ルターの場合よりも厳格であります。信仰告白についての考え方もルーテル教会とは多少違います。
2. やがてカトリックや再洗礼派に対抗するために教会合同の必要性が叫ばれる様になり、この合同の過程で中心的な役割を果たしたのがジャン・カルヴァンです。しかし、改革派をカルヴァン派とよぶことは適切ではありません。改革派は多様性があり、カルヴァンの神中心主義に反するところがあるからです。
3. 一般にブリテン島の改革派諸教会は、その教会組織の特徴から「長老派」と呼ばれます。教会の指導に当たるのは「長老」であって、教師長老と信徒長老がいます。個々の教会（小会）は、この両者の指導態勢のもとに導かれ、個々の教会の地域的な集まり（中会）から、さらに国レベルの教会組織（大会）となり、いずれも会議制の教会の歩みを実現する仕組みです。
4. 他方大陸において、スイスと並んで改革派の中心地となったのはネーデルラントです。17世紀以降のオランダ改革派は、南北アメリカ大陸やアフリカ、アジアへの宣教活動を盛んに行いました。特に南アフリカではオランダ系の改革派が影響をふるい20世紀にはアパルトヘイト政策を神学的に擁護しました。しかし、さすがにこれに対しては、1982年に世界改革派教会連盟（WARC）総会で異端宣言がなされました。

第4. 英国国教会 (Church of England)

1. 英国教会、英国聖公会とも言います。314年のアルル教会会議にブリタニアの司教が出席したことは、組織的な教会の存在を証明するものとされています。現在の英国教会の源流は、597年にローマから派遣されたオーガスティン（アウグスティヌス）がカンタベリー修道院を建て、初代カンタベリー大主教（大司教）となったときまで遡ることが出来ます。

2. 16世紀まではローマ・カトリック教会のイギリスにある枝でありましたが、英国王ヘンリー8世、エドワード6世からエリザベス1世の時代に、ローマから独立しました。英国国教会の成立の主原因がヘンリー8世の離婚問題とされることが多いのですが、実際には、カンタベリー大主教、トマス・克蘭マーや聖公会神学の源流であるリチャード・フッカーらが神学的根拠を提供した宗教改革であります。(丸善出版発行、世界宗教百科辞典140ページ)
3. この教会は、カトリック教会とプロテスタント教会の中間に独自の位置を占めます。この為アングリカン・カトリックという意識すら持ちます。
4. 従って、この教会では、神学的にはかなりの幅を持つことになります。それを一つにまとめているものが二つあります。「主教制」と「祈祷書」です。「主教」は使徒たちに由来し、使徒の権威とカリスマとを継承しています。大主教、主教、司祭、執事という職制があり、服装、式服も伝統的です。この教会では、神学的には多少の違いがあっても礼拝の実践においては、共通であるため、早くから「祈祷書」を定めて、これによることを心がけてきました。
5. 英国国教会は、主として植民地を媒介に広く世界に拡大して行ったため、「某国における英国教会」ではなく、某国という地方性を持つ「聖なる公会」として「中華(日本、韓国等)聖公会」という名称を採用することになったものです。旧英国植民地では英国に端を発した教会という意味で「アングリカンチャーチ・オブ・国名」を用います。また米国聖公会の場合はスコットランド教会から主教職を継承したので「エピスコパル・チャーチ(主教制教会)」を名乗るに至りました。

第5. バプテイスト教会

1. バプテイスト教会は、17世紀イギリスにおけるピューリタン運動のなかの分離派(英国国教会からの完全な独立を志向)、及び独立派(教籍は英国国教会に残しつつ内実は独立した礼拝共同体を組織)から出現しました。共通の特徴は、聖書を信仰し生活の規範とする聖書主義、幼児洗礼を認めず、自主独立を尊重する各教会主義、政教分離を主張する非国教会主義などがあります。
2. ジェネラル・バプテスト
最初のバプテスト教会は、1609年、元英国国教会の教職にありましたが、迫害されてオランダへ移住したJ. スマイスがオランダで設立しました。1612年、J. スマイスと袂を分かってイギリスに帰国したT. ヘルウィスが教会と国家の完全な分離を主張してイギリスで最初のバプテスト教会を創設しました。これがジェネラル・バプテスト派です。
3. パティキュラー・バプテスト
一方、神によって選ばれた者の「特定」恩恵救済を説いたカルヴァン二重予定説をとるパティキュラー派は、1616年、H. ジェイコブがロンドンで教会を設立しました。今日、パティキュラー・バプテストの教会が、全世界のバプテスト教会の多数派となっています。

4. アメリカにおいては、バプテストの原則にたつ最初の教会は、1639年R. ウィリアムズによって設立されました。アメリカのバプテスト教会はフィラデルフィアを中心に発展し、フロンティアの西漸に際して、バプテストの伝道者たちは、その先頭に立ち、多くの南部の州ではバプテスト派が最大教派となりました。アメリカの黒人教会員の約3分の2はバプテストであり、2002年現在、北アメリカには3,300万人以上のバプテストがおります。彼等は、いくつかの連盟に組織されていますが、南部バプテスト連盟 (Southern Baptist Convention) が最大で、また最も保守的であります。

第6. 会衆派 (組合) 教会 (Congregational Church)

1. この教会の起源も、16世紀の英国教会からの分離派です。バプテスト教会と同様、個々の教会のみを教会と認め、それ以上の組織を認めなかったのです。一人一人の信徒が契約によって個々の教会を形成することのみ、教会のあるべき姿と考えました。
2. 神学の基本としたのは、カルヴァンの立場です。一部の会衆派教会はオランダへ逃れました。アムステルダムに移住したJ. ロビンソンらは、新大陸伝道への情熱とともにニューイングランドに渡ったのです。会衆派が特にアメリカで大きな勢力となったのは、1620年ニューイングランドに渡った人々 (Pilgrim Fathers) が会衆派だったからです。そして彼等はプリマス植民地を建設し、その後会衆派は北米において急成長しました。
3. 英国に残留した会衆派は、独立派として迫害の中で存続、17世紀の清教徒革命 (1640~60) の際には、クロムウェル軍の主力となりました。彼等はウエストミンスター会議 (1643年) で自己の立場を擁護し、1658年のサヴォイ宣言 (Savoy Declaration) で自己の原則を再確認しました。サヴォイ宣言とは、会衆派の原則と組織に関する声明で、120の教会代表によりロンドンのサヴォイ礼拝堂で開催された会議で起草されたものです。
4. 日本においては、1869年アメリカン・ボードが日本での宣教を開始し、1886年日本組合基督教会が成立されました。1941年の日本基督教団創立に参加し、解散しました。
5. アメリカ合衆国においては、1957年に合同キリスト教界 (United Church of Christ) が設立され、福音改革派のほゞすべての教会と会衆派クリスチャン教会 (Congregational Christian Churches) の85パーセントが合同したものです。

第7. メソジスト教会 (Methodist Church)

1. ウェスレー兄弟の指導のもとに、18世紀なかばのイギリスに誕生した宗教運動をメソジズムと言います。兄ジョン・ウェスレー (1703-91) は、英国国教会の牧師であり、霊的に沈滞していた英国国教会の信仰覚醒のために伝道活動を展開してゆきますが、教会当局の反対に会いました。そこで1739年に最初のメソジスト会をブリストルに建てました。しかし、彼自身は生涯聖公会への帰属を疑っておらず、正式に

- 英国国教会から独立するのはジョンの死後1795年のことであります。
2. メソジストの名前は、ウェスレーをリーダーとしたオックスフォード大学の宗教サークル「ホーリー・クラブ」の厳格な宗教実践を揶揄したあだ名「几帳面屋（メソジスト）」に由来しています。
 3. ウェスレーは、アメリカに渡る船上で出会ったモラヴィア派の人々を通じて、敬虔主義の影響を受けました。
 4. ウェスレー自身「世界が私の教区である」という言葉に示されている様に海外伝道活動に熱心で、ジャマイカ等のカリブ海諸島、スリランカ、太平洋諸島、西部アフリカなどの地域に早くから宣教師を派遣しておりました。アメリカでは、早くから側近をアメリカ・メソジストの主教に任命して、アメリカの組織がウェスレーなしでも独立して活動できる様にしました。
 5. しかし、爆発的な勢いで成長したアメリカのメソジズムは、19世紀なかばに奴隷所有の是非をめぐって南北に分裂し、南部は「メソジスト監督教会南部」として独立しました。しかし、奴隷制の廃止によって、両者は20世紀初頭に再び合同しました。またメソジズムは早くからアメリカの黒人たちの間にも浸透し、彼らだけの分派も誕生しております。
 6. 日本メソヂスト教会
1873年6月米国メソジスト監督教会が3人の宣教師を派遣したのが始まりです。具体的に残っているものとして、青山学院、キリスト教出版と洋書輸入の教文館、東洋英和学院、関西学院があります。1941年に日本基督教団設立に加わり現在に至っています。

第8. 救世軍 (Salvation Army)

1. 救世軍は、英国メソジスト派の牧師ウィリアム・ブース (W. Booth, 1829-1912) が創設したキリスト教の一派であります。英語からの直訳では「救済軍」となりますが、日本では救世軍が正式な名称であります。「救世軍」という和訳は尾崎行雄の手になると言われています。
2. ブースは、1865年にロンドンでも最も貧しい地域であったイースト・エンドに常設の伝道所を開設し、そこで貧者のため伝道と慈善活動を行いました。そして更なる組織化のため、軍隊組織形態を採用した救世軍へと改編しました。
3. 教義面ではメソジスト派のものとはほとんど変わりませんが、聖餐などの sacrament は行いません。教義よりも、ブースが著した「最暗黒の英国とその出路」で提案された社会福祉的プログラムと活動が、この運動の独自性を表しております。
4. 社会福祉の第一線は、地方公共団体であります。色々と批判はあるものの、現在の日本において、東京都が自ら出来なくなった社会福祉事業を日本の救世軍は行っています。筆者は具体的に知っていますが、日本においても社会福祉の最前線を行っています。

第9. ホーリネス教会

1. ホーリネス教会とは、19世紀後半にアメリカ・メソジスト派を中心に起ったホーリネス運動を基盤に成立した諸教会の総称をいいます。しか

- し、運動は教派を越えて広がっているため、メソジストに限定することが出来ません。
2. ホーリネス運動とは、完全なる聖化 (sanctification) が個人の危機的な経験において瞬時に起るという信仰を中心としています。日本では「きよめ」「聖潔」と訳す場合もありますが、ホーリネスとそのまま表現することが多いと言えます。
 3. ホーリネス運動の誕生はアメリカ特有のリヴァイヴァリズムと深く結びついています。この運動はアメリカ・メソジスト内部の対立を生み、分離したグループは新しいホーリネスの諸教会を設立しました。その最大のもは、ナザレン教会 (Church of the Nazarene) で、1908年にアメリカで独立した教派となりました。またインディアナ州アンダーソン (Anderson) に本部を置くチャーチ・オブ・ゴッド (Church of God) は1881年に設立されました。
 4. 第2次世界大戦中、日本のホーリネス教会は、その千年王国思想が団体を否定するものであるとされ、二度にわたって指導者が大量に検挙され、獄死者が出るほど厳しく弾圧されました。日本では、もう一つ弾圧を受けたキリスト教系教団があります。エホバの証人 (ものみの塔) です。エホバの証人の創立者C. T. ラッセルの跡を継いだラザフォードに学んだ明石順三は、1928年神戸に「灯台社」を設立しました。1939年に治安維持法違反で明石順三は検挙されました。戦後、明石が出獄すると、ニューヨークの本部は、彼に冷淡で、組織を批判したと言う理由で彼を除名処分になりました。コメントは差し控えます。

第10. ペンテコステ派教会 (Pentecostalism)

1. ペンテコステ (五旬祭) とは、過越祭後の50日目にあたるユダヤ教の五旬祭を指すギリシャ語で、聖霊がこの日に使徒たちに降ったので (使2:1-4) この名称は、一般に「聖霊降臨の主日」と呼ばれます。ギリシャ語の「ペンテ」は「五」という意味ですから、五角形をしたアメリカの国防総省の建物をペンタゴンといいます。もともとユダヤ教の宗教記念日 (50日祭、五旬祭) であった言葉が、新しいキリスト教の会派を指す言葉になります。
2. ペンテコステ派教会とは、20世紀初頭アメリカで始ったキリスト教の一教派で、ホーリネス教会の牧師チャールズ・フォックス・バーハム (1873-1929) を創設者とします。1900年12月31日、アメリカの中央部のカンサス州のトピカ市のホーリネス系の「聖書学校」の「除夜祈祷会」から始ったとされます。バーハム牧師は、ここの教授でした。
3. それから5年ほど経ち、バーハム牧師は、テキサス州ヒューストンで「聖霊」について話をしているところに、黒人の青年牧師ウィリアム・シーモア (1870-1922) が現われ、ロサンゼルス市の教会から招かれているとの事でありました。シーモア牧師は、わずか2ヵ月でロサンゼルスのホーリネス教会を辞めさせられますが、シーモア牧師はロサンゼルス市のアズサ通りという道路に面したところで集会を始めました。

1906年4月のことです。ここから「アズサ通りのリヴァイヴァル」が起りました。「リヴァイヴァル」(再興)とは、新約聖書の「使徒言行録」第2章の「ペンテコステの出来事」の再来を指します。

4. ここから合衆国におけるペンテコステ派最大の教派が生まれました。1914年に組織された諸教会の連合体である「アッセンブリーズ・オブ・ゴッド」であります。今では、全世界に212ヶ国に教会があり6700万人の信者がいるそうです。

第11. メノナイト (Mennonite)

1. メノナイト派は、メノー・シモンズの名前に因んで名付けられた再洗礼派(アナバプテスト派)の教派であります。彼等は、自覚的信仰をもたない幼児の洗礼は無効であると考え成人洗礼を実施しましたが、当時のヨーロッパでは再洗礼の実践は命がけでありました。
2. 再洗礼派の運動の原型は、フルドリッヒ・ツヴィングリ (Huldrych Zwingli) (1484—1531)の宗教改革のもとにあったチューリッヒから発せられました。
3. チューリッヒの再洗礼運動の流れを継承したスイス系のグループは、1527年2月に、シュライトハイム信仰告白を採択し、これがスイス兄弟教会および後のメノナイト派の信仰基準となりました。
4. ミュンスターの乱(1534—35) ドイツでは、千年王国論にたつホフマンの影響を受けたヤン・マティスが、1538年、再洗礼主義者の多かったミュンスターに入り、市長を始めとして多くの人に成人洗礼を施しました。ミュンスターでは成人洗礼が強制されたため、ローマ・カトリック教会とルター派の勢力の連合軍がミュンスターを1年余りのあいだ包囲し、1535年6月25日にミュンスターは陥落しました。
5. ミュンスター事件後、北ドイツからオランダにかけて、壊滅状態となった再洗礼派に手を差しのべたのは、ローマ・カトリック教会の司祭であったメノー・シモンズ(1496—1561)でありました。
6. メノナイトの北アメリカへの移住は、1683年、スイス及びドイツ系のメノナイトが移住することから始まりました。
7. メノナイトは、キリスト教世界における政教分離と信仰の自由に貢献しました。また1693年にキリスト友会とともにアメリカの奴隷制に最初の反対の声をあげたこと、また良心的非戦論者 (conscientious objector) の主張にも注目に値するものがあります。

第12. アーミッシュ (Amish, Amische)

1. アメリカ合衆国のオハイオ州・ペンシルヴェニア州・中西部などやカナダ・オンタリオ州などに居住するドイツ系移民(ペンシルヴェニア・ダッチも含まれる)の宗教集団のことをいいます。
2. 発端は17世紀末スイスのメノナイト牧師ヤーコブ・アマン (Ammann、1656頃—1720以前に没)に遡ります。近代文明の拒否をもって知られるアーミッシュは、世俗世界との隔絶、質素な服装、農牧業の重視、電気や自動車などの技術文明の選択的不使用、強い家族的な集団帰属意識を持っており、また絶対平和と良心的兵役拒否などでも知られて

- います。
3. 米国ではさらに、義務教育も社会保障も独自に行うことを主張し、連邦最高裁もその権利を認めています。
 4. 教理と教会規則に関しては、アーミッシュは、メノナイトとほとんど違いはありませんが、礼拝において「ペンシルヴェニア・ドイツ語」を用いています。
 5. 山川出版社発行「忘れられたマイノリティ」の193ページ以下に、以下の興味深い文章が出ていますので、引用しておきます。「アーミッシュが機械文明を否定しているというのは誤解である。彼らは電話も使うし農業機械も使う。しかしグループ間でかなりの違いがあり、進歩派のなかには業務用のパソコンの使用を許すグループもある。どのグループも、先祖伝来の宗教と共同体の生活秩序を脅かさないと判断できる範囲で、現代的技術を選択的・制限的に受容する姿勢をもっているのである。現世的な富への執着や虚栄心を起こさせないことも、その選択と制限の重要な理由である。彼らは教育も福祉も公衆衛生も必要以上に求めないから、そのことで連邦や州当局に訴えられる経験もしてきた。(略)しかし現代医学は選択肢の一つにとどまり、信頼度はあまり高くない。なおアーミッシュは教団として輸血を認めていないと誤解されることがあるが、その選択は個々人(家族集団)の意思によるものであり、輸血を禁じる規則をもつグループはない。(略)興味深いことにこの調査では、2%(3人)のアーミッシュがパウワウ(Powwowing)を経験したことがあると回答している。パウワウとはアメリカ先住民の集会や舞踊、そして魔術的医療を意味する言葉であるが、アーミッシュの民間医療を指すのにも使われる。その魔術的要素がそうさせたのであろう。」

第13. クエーカー派 (Quakers)

1. 正式名は「キリスト友会」または「フレンド派」と言います。クエーカーとは、ジョージ・フォックス(1624-91)らが敵対者(一説には裁判官)から、集会で聖霊により「震える人々」と呼ばれたことに由来する蔑称です。フレンド派運動の中核となったのは、英国国教会や長老派教会の教会制度に不満をもち、洗礼、聖餐、牧師による説教の権威に疑問をもって、イングランド北部で活動していたシーカーズ(Seekers)でありました。
2. 1646年以来、フォックスは「生けるキリストの内なる光」を感受し、説教活動を開始し、1652年頃「真理の友」を形成し、これがクエーカー派の起源であります。フォックスは、典礼や聖職禄、教会出席をも否定したため、生涯に8度の投獄、計6年2ヵ月の獄中生活を送りました。彼の活動は、西インド諸島、メリーランドやロードアイランドなどへも広がりました。
3. この派の特徴は、制度や礼拝形式、教理などに力点を置かず、「教会」ではなく「集会」を持ち、またすべての人の内に常に働く神の力「内なる光 inner Light」を信仰の根拠とする点にあります。この為、人間の尊厳や根源的平等、兵役拒否、絶対平和主義などの主張や運動は、ここに

由来します。

4. 友会徒のウィリアム・ペン（1644－1718）は、活動を禁じられ、追放されたり処罰されたりしていた同胞のためにペンシルヴァニアに土地を獲得し、彼等の避難所を作りました。この為、同じような苦難を体験していたメノナイトやアーミッシュなどの宗教的少数者が集るところとなりました。その他に18世紀に奴隷廃止のために尽力したJ. ウールマンがおります。

第14. ディサイプル派教会 (Disciples of Christ)

1. 19世紀のアメリカの開拓地での協力した伝道に関心をもった長老派のあいだでバートン・W・ストーン (Stone, 1772－1844) 及びアレキサンダー・キャンベル (Campbell, 1788－1866) により始められた宗教団体で、1832年に独立しました。1906年以降アメリカにおいて3つの主要なグループが形成されました。(1) クリスチャン・チャーチ (ディサイプル派)、(2) チャーチ・オブ・クライスト、(3) クリスチャン・チャーチ/チャーチ・オブ・クライストです。
2. 日本には、1888年に宣教師が派遣され、秋田県を中心に伝道活動が展開され、1892年に「基督教会」という名の最初の教会が秋田に建てられました。しかし、現在は、ディサイプル派としては残っておりません。しかし、ディサイプル派が母体として出発した「聖学院」が現在残っております。幼稚園から大学院まで現在10校あります。殆んど知られておりませんが、筆者が遺族から聞いた話としてここで紹介すると、三省堂発行の「コンサイス英和辞典」は、今でも有名ですが、これを最初に作ったのは石川林四郎という明治の英語学者で、この人が聖学院の設立に当って大変尽力したそうです。

第15. ユニテリアン (Unitarian)

1. ユニテリアンとは、三位一体を否定して神の単一性を主張するキリスト教解釈とそれを主張する教派であります。歴史的にはトランシルバニア（ルーマニア中央部及び北西部を占める地方）のユニテリアン教会が16世紀に主張しました。
2. 三位一体を明確に否定して統一的な運動としたのは、アメリカのチャニング (William Ellery Channing, 1780－1842) で、彼が1819年ボルチモアで行なった説教で、三位一体、キリストの神性、人間の全的墮落、代理贖罪の教理を否定し、代わりに神の父性、キリストの道徳的完全性、復活をはじめとする奇跡の真実性を肯定しました。
3. 1925年チャニングは、ニューイングランド125教会の加盟を得て「米国ユニテリアン協会」(American Unitarian Association) を結成しました。
4. 当時ハーヴァードで神学部が形成されつつありましたが、その3人の専任教授は19世紀を通じてユニテリアンであったばかりか、大学全体の学長職にもユニテリアンが多く任命されました。
5. 1960年にアメリカ・ユニテリアン協会は、アメリカ・ユニヴァーサリスト協会と合同して、ユニテリアン・ユニヴァーサリスト協会

(Unitarian Universalist Association) を結成しました。

第16. 新宗教

1. モルモン教 正式名称「末日聖徒イエス・キリスト教会」(The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints)

- (1) この教派は、スミス (Joseph Smith, 1805—1844) により、1830年に始められました。貧しく宗教的な家庭に育った彼は、ある時天使に告げられ、森の中で黄金の板を掘り出し、これを啓示により翻訳して「モルモン教」(The Book of Mormon)として出版しました。それは、古代イスラエルの失われた部族がエルサレム滅亡を前に海を渡ってアメリカ大陸に至ったという内容で、先史時代のアメリカを血統的に聖書の舞台と結びつけようとするものでありました。
- (2) 1843年にスミスは一夫多妻を認める別の啓示を受けました。しかし、モルモン教の成長ぶりに脅威を覚えた市民勢力の迫害を受け、オハイオ、ミズーリ、イリノイへと逃れましたが、1844年にスミスは殺害され、彼の後を継いだブリガム・ヤングは148人の信徒を導いてメキシコ領のユタに至りました。ところが、多妻婚の教義を含むスミスの思想との間に、政府との緊張が高まりました。しかし、1890年にこの教えを放棄し、その6年後にユタは合衆国の州に昇格しました。現在は500万人を超える会員を擁しています。
- (3) モルモン経を聖書と並ぶ「基準書」とする点で伝統的なキリスト教と一線を画すものの、保守的プロテスタント諸教会とさほど異なるところはありません。道徳的にも厳格で、酒・タバコはもとより、中絶・同性愛・賭事などにも反対です。
- (4) 男性信徒には2年間の宣教活動が義務づけられています。日本でも敬虔なアメリカの青年が二人一組で宣伝しているのを時折見かけます。

2. エホバの証人 (Jehovah's Witness)

- (1) ものみの塔 (Watchtower) とも呼ばれます。19世紀の米国で設立されたキリスト教系の新宗教です。本部はニューヨークで、日本での法人団体名は「ものみの塔聖書冊子協会」と称しております。創始者はチャールズ・T. ラッセル (C. T. Russell, 1852年—1916年) で、彼の教えはアドヴェンティスト派 (キリストの再臨が間近いと共通して考えるグループ) に属するものでありますが、彼は1914年にイエスが再臨すると預言しました。しかし、その預言は外れ、運動も一時停滞しました。
- (2) ラッセルの死後、1917年に2代会長となったJ. F. ラザフォードは、徴兵拒否・国旗儀礼拒否・輸血拒否など諸教義を確立させたのは、むしろ2代目であります。
- (3) 信者は旧約聖書のレビ記の「血を食べてはならない」とした教え、また新約聖書の使徒言行録の「血を避けるように」と命じた教えにより輸血を拒否します。この輸血拒否は、各国の医療現場で問題を起しています。日本では体育の授業における格闘技拒否が教育の現場で問題とされたことがあります。
- (4) 彼らが使う日本語聖書「新世界訳」はキリストの神性を認めないなど、

独自の解釈に沿った翻訳がなされています。また信者の義務とされる訪問伝道があり、統計を取った訳ではありませんが、街頭での伝道活動では、彼等を一番見かけます。

3. 無教会主義

(1) 内村鑑三（1861～1930年）によって始められた日本固有のキリスト教の信仰形態であります。「監督なし、牧師なし、憲法なし、洗礼なし、洗礼式なし、按手礼なし、楽器と教壇とを備えたる教会なし」（内村全集14：66）と言っております。しかし、普通の教会と同じ様に、礼拝をするところもない訳ではありませんが、無教会の人達の集会は、家庭集会であるので、きわめて厳格な雰囲気の下に行われ、遅刻者は「此处は家庭集会であって教会ではない」と厳しく注意され、遅れると入室出来ない様です。

(2) 黒崎幸吉、塚本虎二、前田多門、鶴見祐輔、森戸辰男、高木八尺、南原繁、矢内原忠雄、三谷隆正、大塚久雄等に引き継がれており、明らかに知的レベルの高い方々によって、ささえられてきました。

(3) 全国各地70数カ所で聖書研究が行われています。集会は、教会堂をもたず、定められた儀式もなく、聖礼典（ sacrament ）は行われず、信条、教会規則もありません。聖書研究中心、聖書を聴くことが重視されます。

(4) 戦後二度にわたって来日したスイス出身の神学者、チューリッヒ大学教授のエミール・ブルンナーが提唱した教会、無教会の連合礼拝（1955年）等によって、外国でも日本における無教会主義、即ちノン・チャーチ・ムーブメントの存在と活動について、注意を払う者が多くなりました。

4. クリスチャン・サイエンス

(1) 日本語では「キリスト教科学」が正式名称で、科学者キリスト教会（The Church of Christ, Scientist）が教会の正式名称です。イエス・キリストによる、罪とともに身体の癒しを主張するキリスト教の一教派です。

(2) 創始者は、メアリー・ベーカー・エディ（Mary Baker Eddy, 1821－1910）という女性です。彼女はニューハンプシャーの生まれで、若い時から脊髄や神経の病に悩まされており、病の癒しを求めてモルヒネや催眠術に頼っておりました。ある時クインビー（Phineas Parkhurst Quimby, 1802－1866）に出会い、彼独自の「動物磁気」（animal magnetism）論などによる心理療法を施されて癒されました。まもなくクインビーが亡くなり、45才のときにメアリーは、クインビーの遺業を継ぐことを自らの使命と受け止め、彼女は神の啓示と独自の聖書研究を元に「科学と健康—付聖書の鍵（Science and Health with Key to the Scripture）」を1875年に書き、1876年キリスト教科学をボストンに設立しました。

(3) 「科学と健康」は、彼女が亡くなる1910年までに40万部を売っています。その他の刊行物も次々に拡大され、刊行紙The Christian Science Monitorは、今日でも良く読まれています。モニター紙は、ピューリッツァー賞をこれまで6回受賞しており、現在の発行部数は80万部だそうです。

(4) しかし、キリスト教科学は、時折病人に対し適切な治療を怠ったとし

て、米国で最高裁判所から賠償金支払いを命じられていることから、評価が2つに分かれています。

5. セブンスデー・アドヴェンティスト派

(Seventh day Adventists)

もともとミラー (William Miller, 1782-1849) が1843年を再臨の時であると予言しましたが「大失望」(The Great Disappointment)に終わり、その流れを汲む女性エレン (Ellen Harmon White, 1827-1915) を中心に各地に教会が組織される様になり1863年に教派として確立したものです。彼等の特徴は、週の第7日、つまり土曜日を安息日として遵守しています。彼等はミシガン州に本拠地を置き、菜食主義者です。朝食シリアル産業を興したケロッグ博士 (John Kellogg, 1852-1943) も信者の一人です。同派は伝道活動以外にも健康や食事や教育などに深い関心を持っており、日本でも三育系の食品会社や三育学院、衛生病院、さらに5日でタバコがやめられるという禁煙運動などで知られております。

6. サイエントロジー (Scientology)

(1) ラファイエット・ロン・ハバード (L. R. Hubbard, 1911-86)

によって創設された団体であります。彼は米国のネブラスカ州で生まれた冒険小説、SF小説の著名な作家でありました。

(2) ハバードは、1954年、サイエントロジー教会を設立しました。本拠地はフロリダ州です。サイエントロジーは、伝統的な宗教よりも、自己啓発セミナーに似ているとする人もおります。ハバードがその活動を宗教と主張する様になったのは、サイエントロジー教会設立以降であります。米国ではトム・クルーズ、ジョン・トラボルタがメンバーであるとして、良く知られております。

(3) 問題は、カルト集団ではないのかとして、宗教法人として認めていない国が数多くあることです。岩波キリスト教辞典、オックスフォードキリスト教辞典も取り上げておりません。内容を十分に理解せず断定することは、勿論慎まなければなりません。アメリカも日本も苦い経験を持っています。

(4) 日本においては、オウム真理教による1994年(平成6年)6月27日及び28日の松本サリン事件並びに1995年(平成7年)3月20日の地下鉄サリン事件があります。アメリカにおいては、1978年11月18日に南アメリカのガイアナにおいて宗教団体人民寺院の信者909人の集団自殺事件があります。

7. シェーカー派

(1) 少々変わった分派を紹介します。「キリスト再臨信仰者合同協会」(The United Society of Believers in Christ's Second Appearing)とも、「千年期教会」(The Millennial Church)とも呼ばれています。イギリスのランカシャーのボルトン (Bolton) で1747年に起った共産主義的な団体であります。最近の指導者たちの後を継いだ「マザー・アン」と呼ばれたアン・リー (Lee) は、1774年に小さな集団を率いてアメリカへ渡り、

彼等はニューヨーク州のオールバニー付近に定住しました。

(2) 全米的な信仰復興が起ると、信奉者たちはニューイングランド各地へ広がってゆき、最盛期には19の共同体で6000人が共同生活をしており、家具製作や農産物販売で知られる様になりました。

(3) 彼等は厳格な独身制をとったため、南北戦争後はすでに衰退しはじめました。

(4) 彼等を有名にしたのは、礼拝における「シェイカー」と呼ばれるダンスです。また「単純さ」の原理を体現しているシェーカーの工芸品は、現在、その美的資質で称賛されています。

(5) ただ、1992年以降、唯一の共同体が存続するのみです。

8. 統一教会

(1) 統一教会の正式名称は、世界平和統一家庭連合 (Family Federation for World Peace and Unification, 略称: FFWPU) と言います。1954年、教祖・文鮮明 (Sun Myung Moon, 1920-2012) により創立されました。朝鮮戦争後に現れた新しい宗教の中で最も盛んとなったものです。彼が著した「原理講論」と聖書の2つが中心的テキストになっており、その意味では、異端の謗りは免れません。また第2のアドヴェント (再臨) の主である第2のメシアの到来を説き、多くの人々は文鮮明自身がこの新しいメシアであると信じています。

(2) 靈感商法とか、国際合同結婚式の挙行でも有名であり、国際勝共連合を設立して、反共政治活動を行ったり、世界平和教授アカデミーを設立して、学術・言論界への働きかけをも行っています。

9. 解放の神学 (liberation theology)

1960年代後半以降、キリスト教の福音の本質を社会的状況を捨象して把握するのではなく、聖書の預言者やイエスの言動に照らして、抑圧され苦難を受けている人々の「コンテキスト」(歴史的社会的文化的現実) から捉え直し、そうした現実からの解放として試みる現代の神学の動向であり、伝統的な「神学」からの解放も意味します (岩波キリスト教辞典196ページ)。

(1) 中南米の解放の神学

1968年、コロンビアの首都メデジンで開催された第2回ラテンアメリカ司教会議において、ペルーの神学者グスタボ・グティエレス (G. Gutierrez) を通じて知られるようになりました。1971年にはグティエレスの「解放の神学」が刊行されました。解放の神学は、新しい神学思想として登場したのではなく、むしろ「行動する神学 (doing theology)」として、実践的側面が強調されています。

(2) 黒人解放の神学 (Black Theology)

北米では1950-60年代に公民権運動が高まる中、ブラック・パワー宣言を受けて、1969年ジェームズ・H. コーンは黒人神学の端緒を開きました。

(3) フェミニスト神学

フェミニスト神学とは、キリスト教における解放の神学 (liberation

theology) を特に女性の経験と視点から提唱したものと言えます。そして20世紀後半になってようやく神学校に受け入れられるようになった女性たちは、「伝統的な神学の主張する客観性は、実は西洋人白人エリート男性の経験・視点を客観的性と同一視して構築されたものである」としています。そして「フェミニスト神学は父権制社会における女性の痛みの経験から出発する」と表明しています。

(4) 荊冠の神学 (Theology of the Crown of Thorns)

被差別部落解放と聖書的解放を結びつける神学で、栗林輝夫によって提唱されました。

(5) ダリット神学

インドの「不可触民」とされた人々から生み出された神学です。

第17. 福音派とは何か

1. 聖典などのその宗教の権威ある源泉に根拠をもつ教義や規範をそのままの形で断固として守り、世俗主義 (secularism) や自由主義 (liberalism) に対抗しようとする宗教勢力とその考え方をファンダメンタリズム (fundamentalism) と呼ぶ(「根本主義」「原理主義」)などと訳されている) という理解を長くしておりました。しかし、1970年代以降、戦闘的なイスラーム復興勢力やユダヤ教の中の闘争派に対してもファンダメンタリズムという言葉が適用される様になりました。この為もあり、キリスト教では、ファンダメンタルという言葉を使わないようになってきております。
2. アメリカにおいて1960年代以降、プロテスタントのリベラル派に対抗する宗教的保守派は、ファンダメンタル派ではなく、自らを「福音派」(evangelical) と称して勢力を強めてきました。かつて時代に取り残された石頭として嘲笑されましたが、今度は高学歴層をも含み、主流文化に近いところから発言する力を持ち、リベラル派への対抗姿勢を鮮明にしてきました。この二極分解はカトリックの中の守旧派と革新派の対立を巻き込み、アメリカのキリスト教全体が二極化される傾向へ進むことになりました。
3. トランプ大統領は、「伝統的な教会の凋落」と「福音派教会の興隆」というアメリカのキリスト教界の変化を背景に生まれてきました。またトランプ大統領が使う「アメリカ・ファースト」という言葉には、「国内優先」という意味で使っているとしても、古くから住んでいる国民にとっては、ノスタルジックな特別な意味があり、「建国の祖父たちの精神、信仰、そして、なして来た努力を忘れるな」と聞こえるのではないのでしょうか。
4. 聖書の教えをそのまま守り抜こうとする福音派の人々は、アメリカやヨーロッパで結束するようになり、1951年、旧WEAの精神を受け継ぎ組織を再編して世界福音同盟 (World Evangelical Alliance) を結成しました。本部事務所は米国イリノイ州ホイートンにあります。日本では1968年結成の日本福音同盟 (JEA) がそれに相当します。福音派教会の教派名を上げますと、南部バプテスト連盟、ホーリネス系の教会、多くのペンテコステ派の教派、多くのカリスマ派の教派などです。

以上

2020年7月9日脱稿

今後のスケジュール

【癒しの音楽コンサート】

2021年3月6日(土曜日)14時開演

会場：山崎製パン 飯島藤十郎社主記念 LLC ホール



おたより募集！

会報のご感想、ご意見、純正律音楽にまつわること等々、なんでもお寄せ下さい。たくさんのお便りを、お待ちしております。

次号の【ひびきジャーナル】にてご紹介させて頂きたいと思っております。
〒168-0072

東京都杉並区高井戸東 3-2-5-102 NPO 法人 純正律音楽研究会

お電話：03-5317-0291 FAX：03-5317-0289

e-mail：puremusic0804@yahoo.co.jp <http://just-int.com/>

2020年8月7日 発行責任者：NPO 法人 純正律音楽研究会
編集：相坂政夫

*純正律音楽研究会 YouTube チャンネルを開設しました。

コンサートや CD 紹介の映像が当会ホームページからご覧いただけます。

<http://just-int.com/>